

都市再生整備計画(第3回変更)

和大新駅周辺地区

和歌山県 和歌山市

平成26年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	和歌山県	市町村名	和歌山市	地区名	和大新駅周辺地区	面積	380 ha
計画期間	平成22年度～平成25年度	交付期間	平成22年度～平成25年度				

目標
目標1 新駅における交通結節機能の強化と良好な駅周辺環境の維持 目標2 公共交通サービスが充実したまちづくり
目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 本市は紀伊半島の北西、紀ノ川河口に位置する和歌山県の県都であり、古くから市のほぼ中央を東西に流れる紀ノ川の南側で城下町として栄えてきた。高度成長期以降、市街地は周辺の郊外部に拡大し、近年では中心市街地を取り囲むように周辺地域の「核」が形成されていて、計画地区はその「核」の一つである。 計画地区は本市の北西部に位置しており、昭和50年代以降、それまで市の中心部にあった和歌山大学や、地元有力企業が地区内に相次いで移転してきた。また関西国際空港関連の社宅が建設されたほか計画人口約2万人の宅地造成事業・区画整理事業が進むなど市街化が著しい地区である。 本市ではこの周辺地域を「土地区画整理組合による土地区画整理事業を促進し、民間の開発計画による良好な市街地の整備を誘導する」としてきた。 この地域の道路の状況としては、地区内を国道26号が縦貫しており、府県間の交通が集中する区域となっている。一方、市の中心部に向かう交通は、紀ノ川にかかる数少ない橋を通過しなければならず、慢性的な交通渋滞を発生させていて、路線バスの定時性も低下させている。 鉄道施設では拠点駅であるJR和歌山駅や南海和歌山市駅が、ともに紀ノ川南側の中心部に位置しているのに対し、周辺部の市街地の駅は狭い住宅地の中に立地している上、それぞれの規模の小ささから交通結節機能が低く、必ずしも利便性の良い駅といえない現状である。和歌山大学の学生や職員も、大学近くを南海本線が通過するにもかかわらず、最寄の駅が無いことにより、JR和歌山駅や南海和歌山市駅から路線バスや二輪車に乗り換え通学するなど、不便で危険な通学を強いられている。さらに、居住者の増加が進む宅地造成区域内の人々も、通勤や日常において自動車交通に頼らなければならない状況となっている。 このような地域の状況を改善し、また周辺地域の整備を促進するため、平成19年に着工した南海本線の（仮称）和歌山大学新駅は、平成24年春の工事完了、その後早期の供用開始を目指し工事が急がれている。 新駅を中心とした計画地区は、現在の住居・学術・産業の機能に加え、今後商業機能が整備される計画であり、さらに多様な都市機能を持ち合わせた地域となるが、新駅に向かう通過交通や歩行者の増加がもたらす交通渋滞や交通事故の発生、違法駐車や騒音問題などの周辺環境の悪化を引き起こすことなく、個々の都市機能を維持できるような地区の整備が必要となっている。
課題
・鉄道新駅が整備されることにより駅周辺地区は人の流れや交通の中心となるが、これによる交通渋滞や違法駐車、環境悪化の発生が懸念される。 ・本市北西部地域の鉄道駅は規模も小さく交通結節機能が低いため、駅へのアクセス状況は良くない。 ・計画地区と最寄の鉄道駅や中心市街地の間では道路の渋滞により時間的距離が大きくなり移動の定時性が低くなっている。 ・計画地区の大部分は丘陵地であり、高齢者や障害者等が移動する際、大きな負担を強いられている。
将来ビジョン（中長期）
・第4次和歌山市長期総合計画基本構想において中心市街地を「中心核」としているのに対し、計画地区は中心市街地との機能補完・連携を通じて市域全体の都市機能の向上、都市再生を促進させる「地域核」のひとつとして位置付けられている。 ・本市の都市計画マスタープランでは「拠点開発による新規都市機能整備地区」及び「新規住宅開発地区」とし、新駅との近接性を生かした広域交流拠点の形成や良好な居住環境の整備を進めることとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
鉄道乗降客数	人	事業実施前の既存2駅の合計乗降客数と、事業実施後の3駅（既存2駅＋新駅）の乗降客数を比較する。	新駅の開業に加え、使い勝手の良い交通結節点の整備を実現することにより、自動車から鉄道へ交通手段の転換が促され、鉄道乗降客数が増加する。	3,542人	H21	7,200人	H25
路線バスの運行定時性	率	計画地区から最寄の鉄道駅にアクセスする路線バスについて、時刻表どおりに到着する台数を事業実施前と実施後で測定し比較する。	動線が整備され適切な施設配置がおこなわれた新駅の駅前広場が整備させることにより、既存の最寄駅へのバスによるアクセスに比べ定時性が大幅に向上する。	47%	H21	67%	H25
自動車通勤率	率	平日の通勤時間帯において、計画地区内のニュータウンから国道26号に流入する自動車の交通量を事業実施前と事業実施後で測定し、居住人口に対する自動車通勤者の割合を比較する。	新駅や駅前広場等の整備により自動車通勤から電車通勤への転換が促され、自動車通勤者の割合が減少する。	38%	H21	27%	H25

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
高度な交通結節機能の確保と憩いの空間の創出 ・動線に配慮した駅前広場及び駅周辺施設の計画的な整備をおこなうことにより、鉄道、バス、自動車等の交通機関相互の連携を強化するとともに、駅に向かう交通の集中を適切に処理し周辺環境の悪化を抑制する。 ・新駅は本市北西部地区の拠点駅となり、多様な目的をもった人々が集まり通過するため、都市の景観に配慮し魅力的で快適な空間を創造する。		駅前広場内の車道・歩道の整備（地域生活基盤施設） 駅前広場内の植栽やストリートファニチャー、シェルターの設置（高質空間形成施設） 情報板・案内板の設置（高質空間形成施設） 駅前広場に公衆トイレの整備（高質空間形成施設）
公共交通や自転車の利用促進 ・新駅の利用案内やパークアンドライドの促進をおこない利用者の増加に繋げる。 ・駅周辺には駐車場や駐輪場を適切に設置しパークアンドライド・サイクルアンドライドを促進することにより、鉄道やバスだけではなく自転車の利用を促進し渋滞緩和や環境負荷の低減に寄与する。		キスアンドライド駐車場、駐輪場、バス・タクシーパースの設置（地域生活基盤施設） 公共交通の利用促進のため、鉄道やバスの時刻表や公共交通のメリットが記載されたリーフレットの製作配布及びイベントの開催を行う（地域創造支援事業）
その他		
【新駅整備と駅前広場整備】 計画地区内の鉄道新駅は、昭和50年代の後半から地元を中心として要望されてきた。平成4年、請願者である和歌山大学、和歌山県、和歌山市の3者と鉄道事業者である南海電気鉄道株式会社とにおいて、新駅設置に向けた協議が開始された。 その後、新駅整備事業は区画整理組合が主体となり、市がその費用を補助することで事業化に目途が立った。さらに背後地で施行されている宅地造成事業と一体的に整備される鉄道施設として、国土交通省の「住宅市街地基盤整備事業」の補助採択を受け平成17年度から事業化された。 この間、駅の規模や必要な機能を検討するため、本市では平成10年にアンケートの実施を含む調査をおこなった。また平成17年に新駅の詳細設計を実施するにあたり、新駅と一体となった駅前広場の整備規模や施設、及び周辺の交通体系の基本計画を検討するため、行政と地元、交通事業者により「新駅を中心とした交通体系ワーキンググループ」を立ちあげた。ワーキングではこれまで他府県の類似駅・駅前広場の視察に加え、住人、企業、大学などでアンケートを実施し意見を聴取している。また国土交通省や警察との協議をおこなうなど、新駅開業後の周辺整備について現在も継続協議している。		
【道路整備】 計画地区内及びその近接地において市道や国道の整備が進められている。 本市の北部を東西に横断する「都市計画道路西脇山口線」は、本計画地区付近の区間は既に供用されており、現在は全線供用に向け整備が進められている。また大阪府と結ばれる「第二阪和国道」は平成27年度の供用開始を目指し現在事業中である。西側駅前広場の進入交差点が計画される「国道26号」については、勾配の緩和、車道の拡幅に加え、線形の改良を計画し、更に駅へのアクセスを考慮し歩道の新設についても検討されている。 また計画地区内を通り「国道26号」と「第二阪和国道」を結ぶ新規都市計画道路「中平井線」は、現在、都市計画決定に向け手続き中である。		
【区画整理事業】 計画地区内では組合施行による土地区画整理事業が進められている。区画整理組合は平成12年に設立認可を受け、丘陵部を造成し市街地を整備する他、鉄道新駅整備事業の事業主体となっている。		

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	326	交付限度額	130	国費率	0.4
---------	-----	-------	-----	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業		事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路	国道改修	国道26号	和歌山市	直	L=316	H22	H22	H22	H22	62	62	62	0	62
公園														
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設	広場	駅前広場	和歌山市	直	A=10,660㎡	H23	H23	H23	H23	106	106	106	0	106
地域生活基盤施設	駐輪場	駅前広場	和歌山市	直	A=1,413㎡	H23	H23	H23	H23	17	17	17	0	17
地域生活基盤施設	緑地	駅前広場	和歌山市	直	A=805㎡	H23	H23	H23	H23	13	13	13	0	13
地域生活基盤施設	案内板・公共サイン	駅前広場	和歌山市	直	4基・15基	H23	H23	H23	H23	6	6	6	0	6
地域生活基盤施設														
高質空間形成施設	ベンチ・街路灯・シェルター	駅前広場	和歌山市	直		H23	H23	H23	H23	93	93	93	0	93
高質空間形成施設	公衆トイレ	駅前広場	和歌山市	直	—	H23	H23	H23	H23	25	25	25	0	25
高次都市施設														
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地 総合整備 事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										322	322	322	0	322

提案事業														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	交付期間内		交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
地域創造 支援事業	公共交通利用促進活動		和歌山市	直		H24	H24	H24	H24	2	2	2	0	2
事業活用調 査	事業効果調査分析		和歌山市	直		H25	H25	H25	H25	2	2	2	0	2
まちづくり活 動推進事業														
合計										4	4	4	0	4
													合計(A+B)	326

[illegible]

和大新駅周辺地区(和歌山県和歌山市) 整備方針概要図

